



はね橋



さんかくいん
三学院



わらじろう

歴史のみち広域景観形成プロジェクト

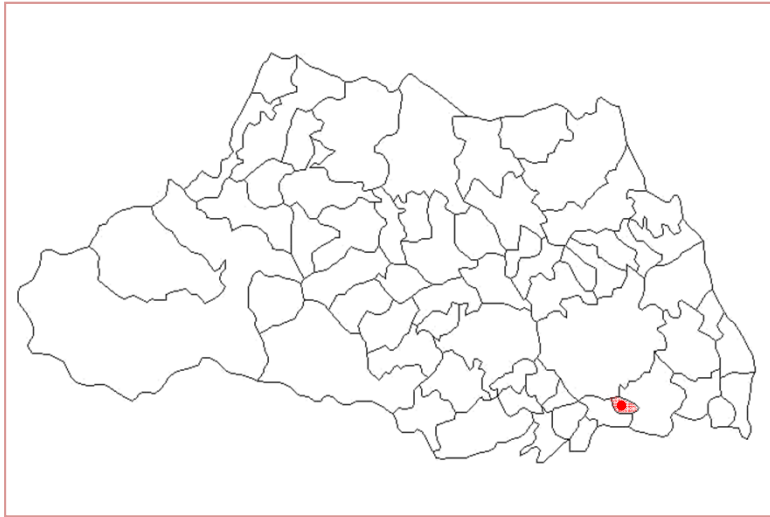
○ 旧街道や旧宿場町などに埋もれている歴史的景観資源を保全・活用し、広域景観形成を進めるプロジェクト。

- ・ 地域景観資源発掘調査
- ・ 歴史のみち景観モデル地区の選定
- ・ 講演会、まち歩きなどの啓発活動
- ・ 景観重要建造物の指定

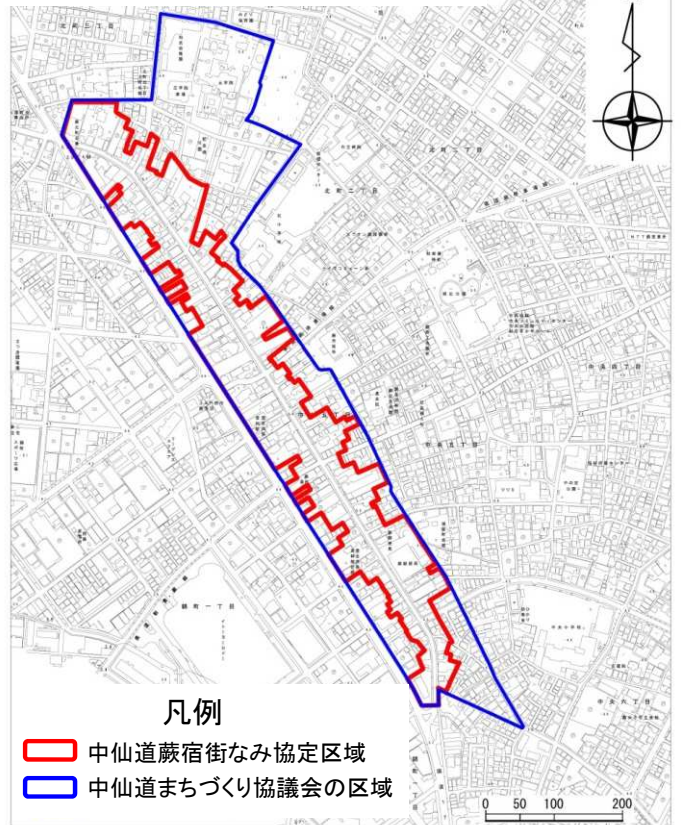
歴史のみち
景観モデル地区



蕨宿地区の概要



中仙道蕨宿まちなみ協定区域図



地区の概要

- 交通
JR蕨駅から徒歩で15分
又は
バス停「蕨市役所」下車 徒歩5分
- なりたち
・中山道で江戸から2番目の宿場として
まちなみが形成されました。

景観資源

高札風の案内板



はね橋



旅籠(はたご)



中仙道蕨宿
開設400年記念碑

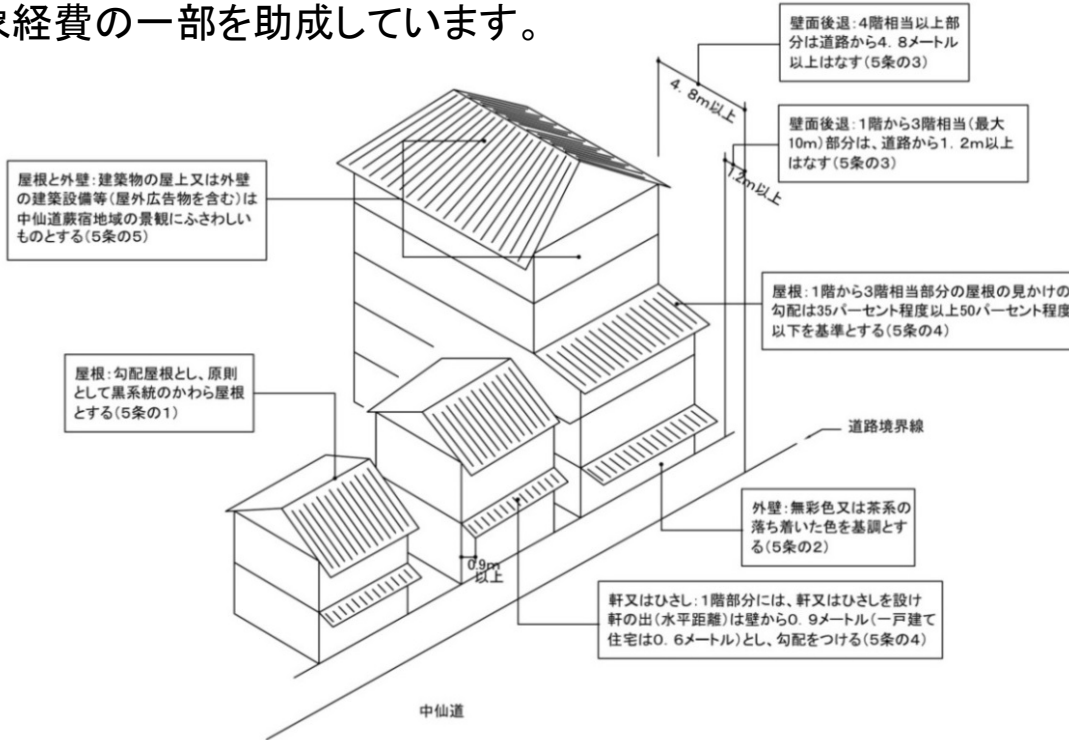


鈴木薬舗
(中仙道蕨宿景観建築物)



蕨宿の取組

・中仙道まちづくり協議会が指定した景観建築物(歴史的景観である古い建築物)の修復、及び中仙道蕨宿まちなみ協定に合致している建築物の建築や外構の修景に対して対象経費の一部を助成しています。



中仙道蕨宿まちなみ協定に沿って整備された建築物

四国屋



北町交番



八百市



近江屋



蕨 宿 に

蕨宿の成り立ちと町並み

蕨宿は、「蕨宿伝馬屋敷帰住願書（わらびしゅくてんまやしききじゅうねがいしょ）」などから、中山道で江戸から二番目の宿場として、慶長17年（1612）ごろ成立したといわれています。

蕨宿は、宿場機能を持つ町部とそのまわりの農村部から成り、天保14年（1843）の人口は2223人、家数は430軒ありました。宿場の町並みは、南北10町（約1090 m）あり、そのまわりを用水堀で囲み、宿場の出入口2か所には木戸が置かれました。また、町部には、本陣2軒・脇本陣1軒・問屋場と高札場が1か所ずつあり、庶民が泊まれた旅籠や休憩のできた茶屋、さらには穀物屋・豆腐屋・髪結などさまざまな職業の人々が暮らしていました。



蕨宿模型（歴史民俗資料館）

庶民に幕府の法令を衆知させるため、宿場などに掲げられた木札を高札、掲げた場所を高札場といいました。蕨宿は、五郎兵衛本陣家の前にありました。



高札風の案内板

問屋場(といやば)

問屋場は、宿場間の旅人と荷物に関する事務を行なうところで、問屋・年寄・帳付(ちょうづけ)などの役人がいました。交代で勤務し、人馬の継ぎ立てなどの業務を行なっていました。

旅籠(はたご)

旅籠は、庶民が宿泊できたところで、食料を持参する木賃宿(きちんやど)とは違い食事付でした。天保14年(1843)当時、蕨宿には23軒ありました。



当時の趣きを残す形で建て替えが行われた

本陣

蕨宿の本陣は、加兵衛家と五郎兵衛家の2軒が代々勤めていました。本陣は、玄関・書院・上段の間・門などがあり、大名や公家などの宿泊所であり、庶民は利用できませんでした。大名が宿泊する時は、到着日を知らせ、関札を門前等に掲げ、提灯を吊し、幕を張って一行を迎えました。

脇本陣

脇本陣は、本陣に次ぐ格式があり、蕨宿には1軒(新蔵家)がありました。大名などが蕨宿に宿泊するとき、家臣や従者が利用しました。大名の宿泊がないときは、庶民も利用することができました。

中仙道蕨宿開設400年記念碑

『叶う道の碑』

平成24年(2012年)に蕨宿開設400年を迎え、歴史民俗資料館入口に設置された石碑です。

草鞋(わらじ)の部分を自分自身と見立て、素通しの部分を人生で出会う道として表現しています。

草鞋を撫でて祈願すると、習い事、困難な道、修練の道などが成就する記念碑です。



